

Hiroimi Kimon



嘉門宏美さん

札幌市

所属：合同会社 BACAMON

大学から札幌を離れて留学し、海外や東京で暮らしながら、本質的な豊かさを追求する中でキーワードになってきたのは、自然や農業、地域。廻り巡って、理想のライフスタイルが地元である北海道にみえた気がしました。戻ったのが2013年8月。とは言っても、人とも地域とも、つながりが途切れてしまっている状態からのスタートで、まさに若者、ヨソ者、バカモノ。このプログラムを通して、北海道をさらに良くしていきたいという共通のビジョンのもと、産官学、経験問わず幅広い人とのつながりができました。バカモノらしく、エネルギーを注ぎ、一緒にワクワクできる人や場所を増やしていきたいです。

Toshihiko Goto



後藤俊彦さん

士別市

所属：後藤農園

私は士別市で農業経営を行っており、水稻、畑作、野菜の生産を行っています。当地域は、従来水田地帯ですが、近年急速に転作が進み、多くの品目の野菜が生産されています。しかし、六次化で成功している事例は少なく、原料供給が中心になっているのが現状です。そのような状況の中、六次化により地域の活性化に少しでも寄与したいとの想いから本講座を受講致しました。本講座では、自分の専門外であるマーケティングや財務分析の知識を習得できただけでなく、全道各地に専門知識を持った受講生のネットワークができたことが大きな収穫でした。今後は、自農園の野菜で加工品を作ることから始め、将来的には地域の特産品になるように発展させていきたいと考えています。

Hitomi Yoshida



吉田仁美さん

札幌市

所属：北海道農産物拡大プロジェクト

新冠町出身で、この講座は一期修了生であり北海道6次会会長の吉岡氏から伺い、参加を決めました。受講前、自分がしたいと思っていたことが漠然としておりましたが、それが明確になってきた気がします。また、色々な方が参加されていたのでつながりも増え、これからの動きに広がりも増えました。今後は、同じ班になった方々と事業計画を現実のものとするために更に具体的なプランを立て、会社を起こしたいと考えております。

中村英雄さん

斜里郡
斜里町

所属：中村農園

私は道東の斜里という町で農家を営んでおります。当地では、畑作3品目と言われる渡原馬鈴薯、甜菜、小麦を中心にカルビー馬鈴薯、人参、キャベツ、玉葱などを個々に組み入れた畑作地帯でもあります。また、我農園は3品目に加え玉葱を野菜している農家で、その生産物は組合に出荷しておりますが、玉葱を自主的に販売したいと思い、数年前から少量ですが販売を行っている現状にあります。実際に、販売を行うにつれて商品、販路、価格等決めるべき事は多く、経験のないばかりでした。現状での自主販売の課題は、商品を素材で提供しているために商品は単純で、販売期間も短く、顧客に対して十分なサービスを提供できないことにあります。今回の受講の動機は、素材に加工し付加価値を高め、顧客に提供できる商品の幅と期間を長くすることで顧客満足度を高めることにありました。実際に受講してみると、講師をして頂いた先生の個性とプログラムの内容も多岐にわたり十分ものであり、受講者仲間も仕事が多岐にわたり沢山の有意義な刺激と経験を得た講習となりました。

Hideo Nakamura



成田真市さん

上川郡
愛別町

所属：有限会社美土里

上川郡愛別町にて米農家をしております。カリキュラムを見て自分の苦手なコミュニケーションやプレゼンの講義があることを知り、さらには異業種の人と知り合える良い機会だと思い受講を決めました。グループでプランを考えて発表する講義では、実際に受講前から準備を進めていた体験型農家民宿のプランについて、グループのメンバーから新しい視点で意見をもらうことができ大変参考になりました。講義の時間以外にも何度も集まって話し合い、発表の練習をしたことはとても楽しく良い経験になりました。事業計画の立て方やプレゼンの仕方など実践的に学べたと思います。今後は養成塾のメンバーや先生方からいただいた皆さんのアドバイスをもとに、2014年秋のプレオープンに向けて準備を進めていきます。養成塾関係者の方にも気軽に遊びに来ていただけるアットホームな民宿を目指します(笑)!

Masaichi Narita



高田流美さん

美唄市

出産を機に食や未来を考えるようになり、迫る危機感に「なにか」を見つけたくて飛び込んだ6次化リーダー養成塾は、漠然とあった違和感や想いの答え合わせとなる授業内容でした。得手・不得手、相乗効果、適材適所など見過ごしてしまうような“気付き”が多く、自分と向き合う良い機会となりました。カリキュラムは修了しましたが、次世代に繋ぐ子育てこそが私の実践だと思うので、地域の人達を巻き込んで取り組んでいきたいと思っております。

Rumi Takada

